

計画メインテーマ

～ 子どもたちが安全・安心に学べる豊かな教育と保育が可能な施設の建設 ～

〈 保育所の現況 〉

清水町内の乳幼児のための教育・保育施設は、清水地域に第一保育所、第二保育所、清水幼稚園の3施設と御影地域に御影保育所が設置されています。

特に清水地域の3施設に関しては、第一保育所が昭和57年、第二保育所が昭和49年、清水幼稚園が昭和53年に建設されており、昭和56年の新耐震基準以前の建物も2棟あり、耐震性の問題はもちろんの事、特に第二保育所は壁面の傷みや雨漏りなどの老朽化が激しく早急な建て替えを必要としています。

また、近年の子育て支援策の拡充や女性の社会進出などの社会情勢により、各保育所とも3歳未満児の入所が増加しており、保育室の整備が急務となっています。

その他、現状の調理室や職員室等は児童の増加とともに手狭となっており、職員の負担軽減や作業効率の向上などに配慮した施設の改善も必要となっています。

〈 保育所建て替えにおける基本コンセプト 〉

1) 敷地形状と高低差を考慮した配置計画の検討

- 当該計画地は住宅地に面しているため、園庭利用時の周辺環境への配慮や児童の送迎時の動線を考慮した配置検討を行う。
- 付近道路から低いため、敷地造成の計画にあたっては高低差の処理を検討する。

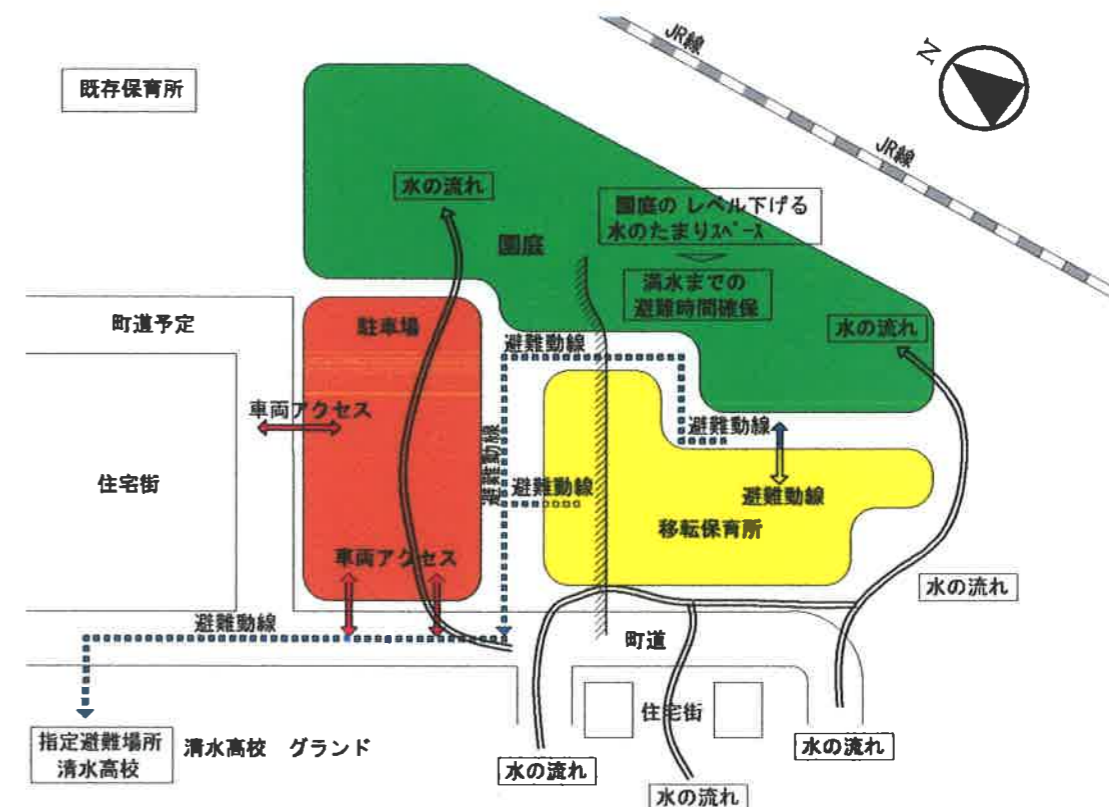
- ・ 当該敷地は、東面をJR線、西面に住宅が多く、保育所配置を南北長手とする事で「園庭利用時」の音を遮るような効果を狙います。
- ・ JR側もフェンスを設置し安全対策を図ります。
- ・ 付近道路からの高低差は現地測量により、一番大きい所で3m以上道路より当該敷地が低い事が分かりました。
この高低差を盛土で対応するのは費用面で大きな負担となりますので、建物の床レベルを周辺よりも高くし、園庭はあえて一段低いレベルとし、一昨年の台風被害での河川氾濫のような場合は、敷地内に流れ込んできた水を園庭側へ流すように計画します。

2) 安全性の確保をした平面計画と階層、構造の検討

- 児童が安全に保育所ですごすことができるよう細部まで配慮した平面計画とする
- 建設コスト、ランニングコストの費用対効果の検証と自然災害を念頭に置いた平屋と2階建て、構造（鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造）の検討を行う。

施設は、現行基準法の震度6強に耐えられる耐震性はもちろんの事、避難経路も最短で避難できるよう計画しています。

一昨年の河川氾濫時の周辺の状況から、南北長手配置とし建物の腰壁を高くする事で西面からの川の水を一時的に堰止めを行い、保育室内に水が流れ込んでくるのを遅らせるような対策をします。



当設計は、平屋建てと2階建ての平面計画と鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造の3種類の構造で建設コストを比較検討しました。

計画上、3歳未満児の保育室を1階と2階へ配置するプランを検討しましたが、1階の床面積が大きくなり総2階建てのようなコストダウンは難しいと考えます。また、2階建てとする事により共用率が平屋18.71%に対し最大31.09%となり、エレベーター、階段などそのままコストに反映されます。

一方、平屋は共用部などコンパクトな設計が可能であり、敷地も広い事から平屋建てとします。

構造は建設コストが優れている鉄骨造と木の温もり、暖かさなど感じられる木造を中心にすすめます。

外壁は、耐久性とコストに優れている材料を検討してコスト削減に努めます。

例 ～ 耐久性が高いガルバリウム鋼板、十勝の土で焼いたレンガなど

3) 外構（園庭）の検討

- 子どもたちの体力向上や興味を駆り立てる遊具や「しかけ」等による多様な保育・教育のニーズに対応出来るよう検討する。

敷地内の樹木をそのまま森として残し、昆虫などの自然学習ができる**学びと探検の森**、子ども用の畑を作り野菜を収穫して自然の恵みに感謝する**食育の畑**、泥遊びができる**泥んこの海**や、裸足で走り回るゴムチップのテラス、芝など造作遊具に頼らない自然遊具の遊び場を施設の「しかけ」として計画します。



4) 将来の認定こども園への変更を考慮する

- 第一保育所と第二保育所の統合の計画だけではなく、将来の幼稚園との統合も念頭に置いた幼保連携型認定こども園への対応を検討する

幼保連携型認定こども園は、教育基本法上の「学校」として、また児童福祉法上の「児童福祉施設」として教育と保育とを一体的に行う単一の施設として使用するため、様々な規制、基準を考慮しなければなりません。

この計画では、どちらか厳しい方の規制を適用します。

このようにして、様々な規制によるものを解決していかなければなりません。子どもたちが**安全・安心で豊かな教育と保育が可能**となるよう計画します。

5) 施設のしかけ

- 子どもたちが伸び伸びと成長していくための建物の様々な「しかけ」の検討

- ◇ 落書きウォール： 「思いっきり壁に落書きしたい！」そんな子どもの気持ちに応えます。ビューボードという商品で拭き取ればすぐに落ちる落書きボードを設置します。
- ◇ DEN、ロフト（穴ぐら）： 穴ぐらのような建築的な遊具空間を言い、子どもたちが喜ぶ「しかけ」として、ひっそりと隠れることのできる秘密基地や隠れ家的な居場所を造ります。職員が管理上覗けるような穴も設置します。DENの上にはロフトも設置したいと考えています。
- ◇ ボルダリング： 体力向上、身体能力の向上を目標にボルダリング設備を設置します。
- ◇ 食育コーナー： 厨房内の様子を子どもたちが覗けるように硝子張りとし、給食のできる過程を観る事により食への興味を持ってもらえるような食育コーナーを設置します。



落書きウォール



ボルダリング設備



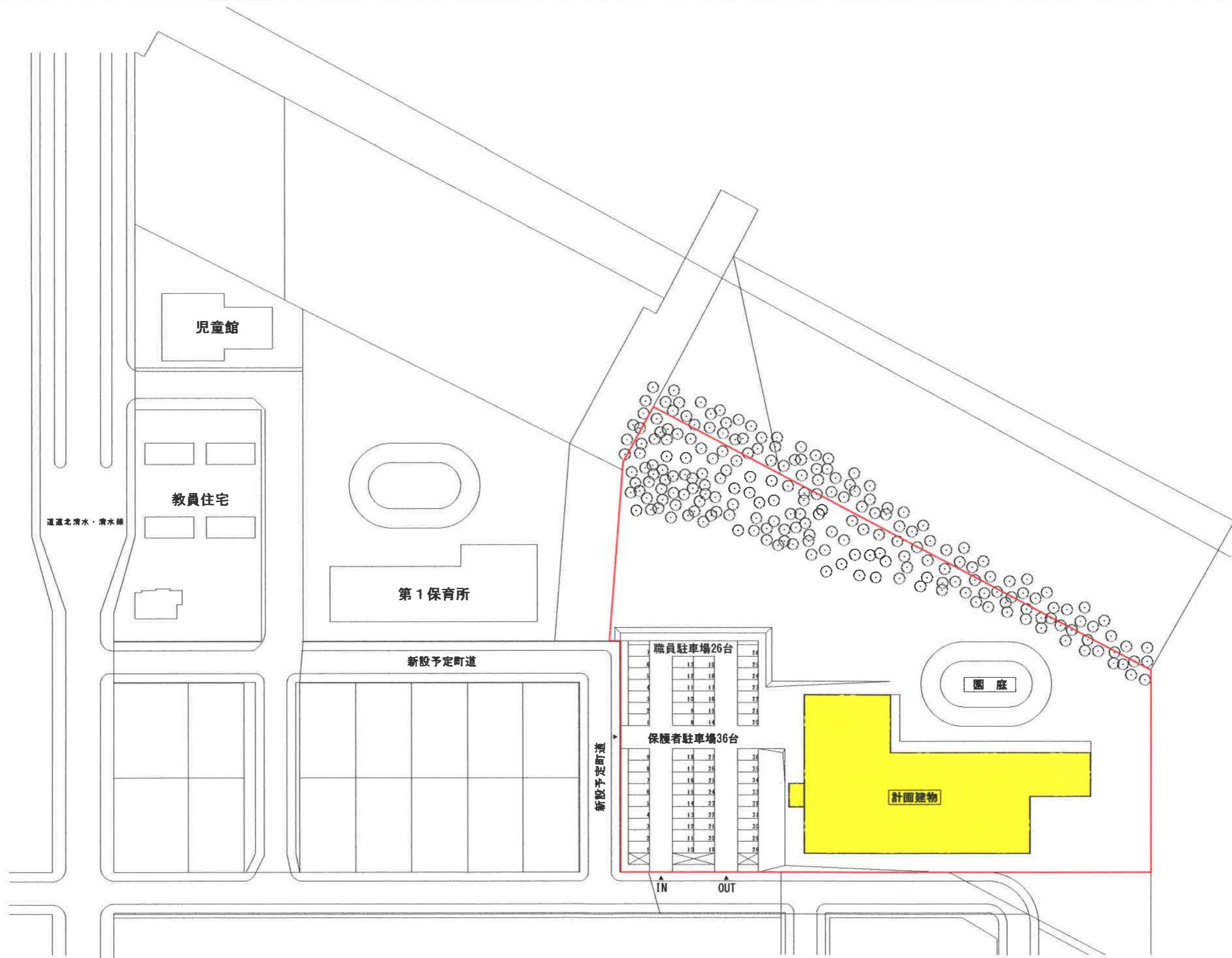
職員が覗き込めるDEN

今後のスケジュール

平成30年度	実施設計
平成31年度	建設工事
平成32年度	開園

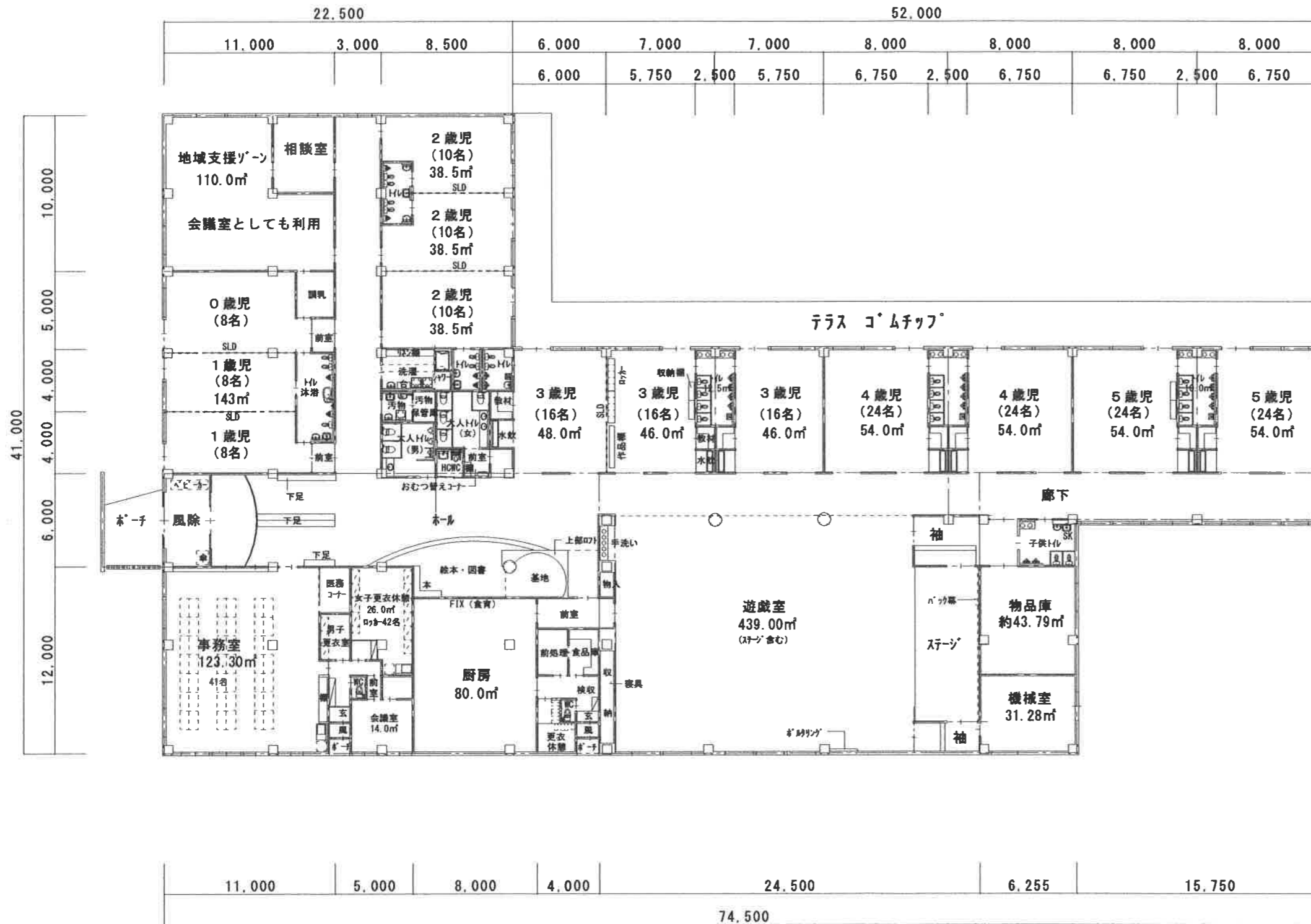
(仮称) 清水保育所基本設計図面

※この図面の内容は基本設計図面になりますので、実施設計時に変更になる場合があります。



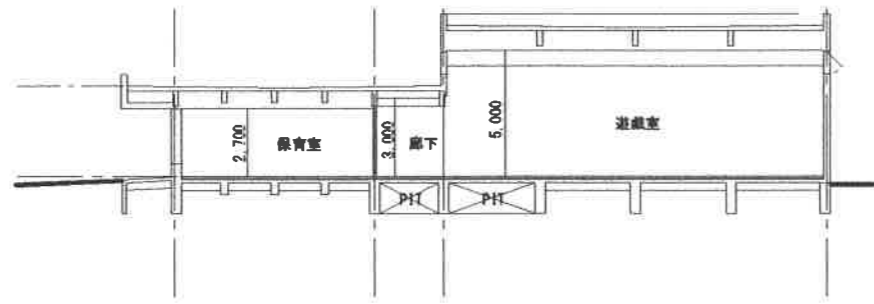
配置計画図



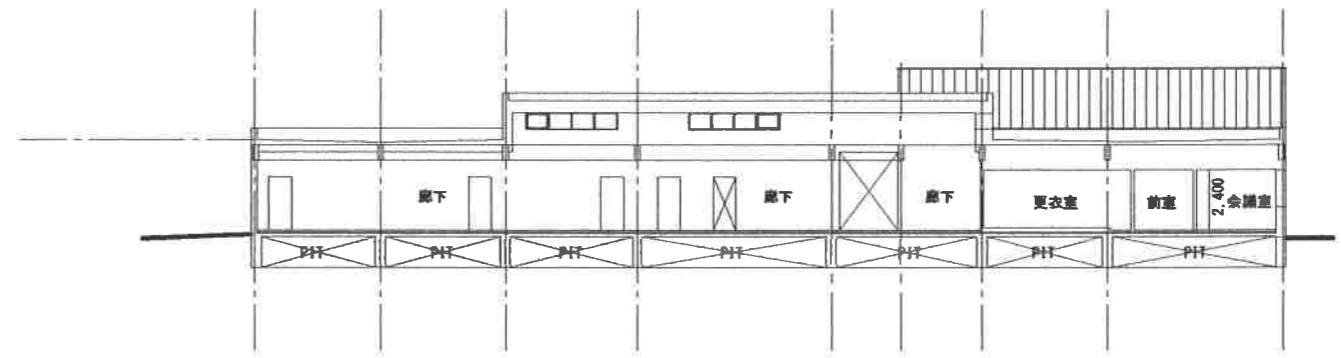


平屋案計画図 1:300

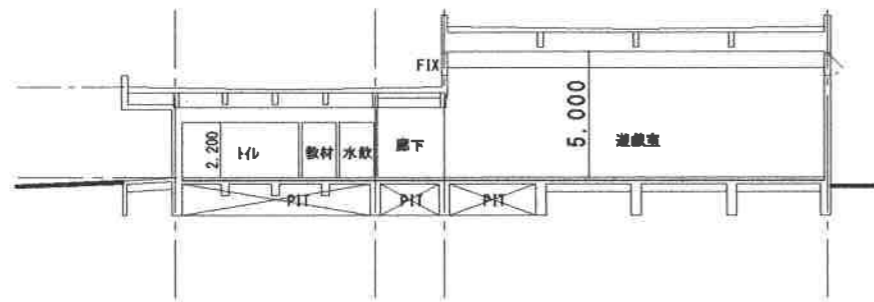
2,039.39㎡



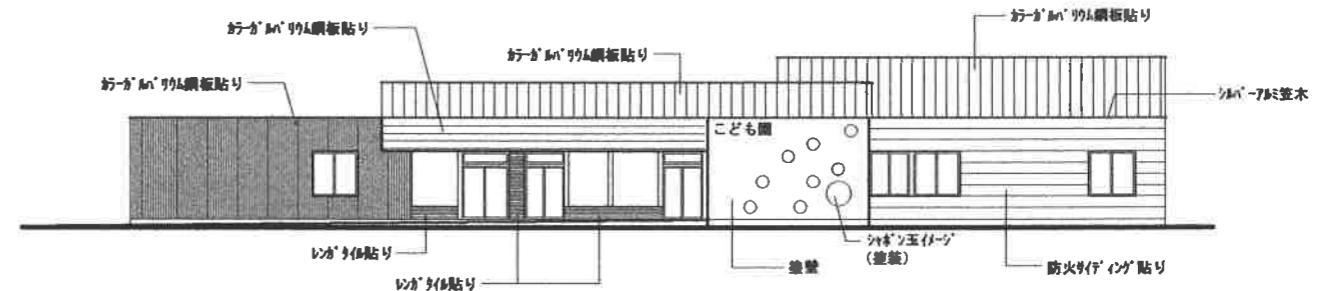
妻側断面図 2



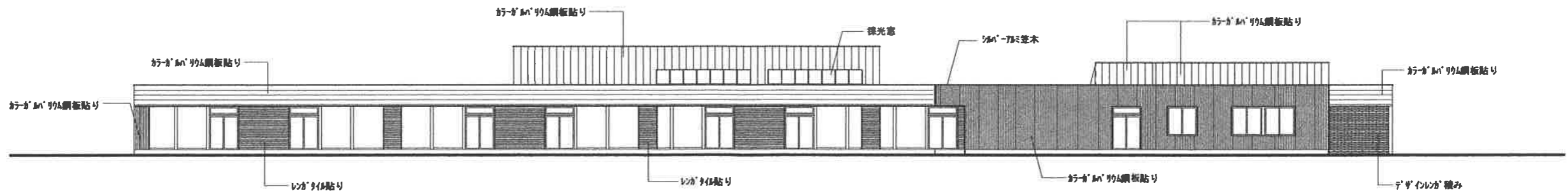
桁側断面図



妻側断面図 1



北立面図



東立面図